

オンデマンド授業におけるグループワークの試み

An Attempt on Group Work in On-Demand Class

山本 樹^{*1}

Tatsuki YAMAMOTO^{*1}

^{*1}明海大学総合教育センター

^{*1}Meikai University, Integrated Education Center

Email: tatsuki@meikai.ac.jp

あらまし： COVID-19の影響で、2020年度には多くの大学でオンラインでの授業が主となった。2021年度になってオンライン授業の授業数は全国的に減少したものの、履修者が多い科目は、オンライン授業がまだまだ主流となっている。その中でもオンライン授業グループワークを実施する授業の多くは、リアルタイム型の授業が多い。本学で実施している初年次教育科目の1つ「学修の基礎Ⅰ」は、自分の特性を理解することが学習主題の1つである。このため、グループワークによって自己を内省・詳察することが重要となっている。しかし、この科目の対象者は、全学部全学科の1年生で、全学科の学生を混成させてクラスを設定しているため、リアルタイムでの授業が困難であった。そこで、オンデマンド型授業でのグループワークを試みた。本稿ではこの授業の実施内容を報告する。

キーワード： オンライン授業、オンデマンド型授業、初年次教育、自己内省

1. はじめに

2020年度はCOVID-19のまん延によって教育機関の多くでオンライン授業が主流となった。このときのオンライン授業の実践についての報告も多数ある例えば、仲林⁽¹⁾は、ドキュメンタリービデオの視聴、レポートの提出、他学習者のレポートの閲覧から、自他の考えを対比させて理解を深めさせるオンデマンド型の授業実践の報告をしている。また、学習者がみずから学修する方法がある。また、曾我ら⁽²⁾は、ZOOMなどのWeb会議システムを利用した、リアルタイムで学習者と教員、または学習者間で、インタラクティブなやり取りを実施した例などが見られる。グループワークにおいては、Web会議システムのブレイクアウトセッションなどを利用したものが多く見受けられる。

このように、オンデマンド型での授業の場合は、学習者間の対話やコミュニケーションが少なく、リアルタイム型の授業の場合には、教員と学習者、または、学習者間でインタラクティブ性をもった授業実践が報告されている。

本稿で報告する授業「学修の基礎Ⅰ」では、自分の特性を理解することが学修主題の1つとなっており、自己内省を深めるようグループワークを主とした、対面による授業を展開する予定であった。

2021年度前学期開始時は、対面授業であったが、本学の設置する千葉県で「まん延防止措置法」が発令されたこと、部活内でのクラスターの認定などがあり、2021年4月26日（第4回授業）から、学部ごとに専門科目のみ対面授業と遠隔授業を隔週で実施することとなった。このため、学部学科が混成した科目はオンデマンド授業で実施することとなった。そこで、オンデマンド授業の中でオンラインディスカッションを実施することとした。本稿はその授業実践の報告である

オンデマンド型で、学習者間でインタラクティブ性をもった形態の授業実践を報告する、

2. 科目の概要

「学修の基礎Ⅰ」は、自分自身の特性を理解し、目標をもって大学生生活をスタートするためのもので、初年次教育のスタートアップ科目として位置しており、本学浦安キャンパスに籍がある5学部7学科すべての1年生の必修科目となっている。学部学科ごとにクラスを編成するのではなく、すべての学科の学生が混成する形で30クラスに編成し、同一内容の授業を実施している。科目の構成・内容を表1に示す。

表1 科目の構成および内容

授業内容	授業週
ガイダンス	1
大学での学びの方法	2, 3
自己を知る	4～7, 12, 13
情報整理	6, 7
情報を探す	8～11
大学の学びを考える	14, 15

3. 実践内容

2021年度は、第1～3回まで対面で授業が実施できた。学期開始時点で、クラスごとにグループを決めてあったため、当初から設定したグループ内の学生同士で交流がある状態でオンデマンド授業に移行している。同じグループで第15回授業までグループワークを実施した。

オンデマンド型授業に移行するにあたり、オンデマンドでも無理なくグループワークを実施できるよ

うに、1つのテーマに対して、PDCA サイクルを利用した。

1. 情報の整理と作成 (P, D)
2. 相互閲覧とコメントの付与 (C)
3. レポートの振り返りと修正 (A)

と3回の授業に分けて実施した(図1参照)。レポートに関しては、「自己PR」や「要約文」など、1年生が遠隔授業でも作成可能な課題とした。

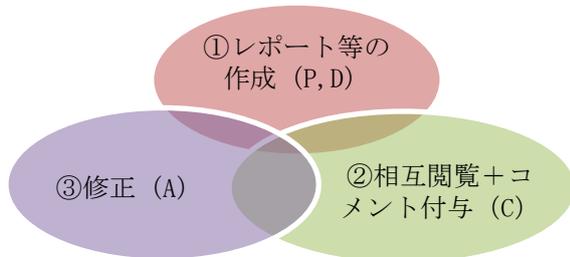


図1

3.1 第5～7回授業「自己PR」実践内容

第5～7回授業では、「自己PR」を作成する課題である。第5回授業では、自己PRの概要を説明し、自分の過去の経験を想起し、整理した後、自己PR文を作成する。

第6回授業では、予め決められた5～6名のグループ内で、他者の自己PRに対して、コメントを付けた。コメントを付ける際は、1:自己PRから伝わったアピールポイント、2:自己PRでわからなかったこと、疑問などの感想、の2つの視点からコメントするように伝えている。グループの分割およびコメントは、学習管理システムmanabaの「プロジェクト」機能を用いている。「プロジェクト」では、グループのメンバー内での相互閲覧とコメント付与が可能となっている。第6回授業では、上記に加え、情報整理術として「要約」の準備(要約の方法と、要約する元となる新聞記事の整理)も平行して実施している。

第7回授業では自分の自己PRにコメントされた内容を参考に、修正した。これに加えて「要約文」を完成させ提出させた。

2つのテーマを第6回、第7回授業で扱っていたため、学生に混乱が生じないように、自己PRに関することを「事前学修」とし、要約を「授業時間」として提示した。提示でLMSの相互閲覧機能を用いた。

3.2 第8～11回授業での実践内容

第8～11回授業では、グループ毎にディスカッションテーマを与え、自分の主張とその理由を発表している。自分自身で主張する方を考え、その主張に基づいて自分の考えを明確化していく作業となる。

第8回授業では、与えられたテーマについて、各自でHPや新聞記事などを調べて、主張を決め、主張に対する自分の考えを整理する。

第9回授業では、整理した内容を発表原稿にまとめた後、口頭で発表したものをスマートフォンに録音し、LMSから提出させた。

第10回授業では、第6回授業と同じように、グループで、グループ内の他者が提出した発表を聴き、コメントを付ける。コメントを付ける際には、1:自分の主張との同異、2:発表での主張に対する考えに対する同異とその理由、3:発表の方法方の3つの視点からコメントするように伝えている。

第11回授業では、自分の発表に対して付与されたコメントを参考に、発表を修正させ提出させた。

4. アンケート結果

第1回授業と第9回授業に自己評価アンケートを行った。自己評価アンケートでは、この科目の授業目標に関して5件法の回答となっている。回答数は第1回授業が138名、第9回授業が132名であった(4クラス分)。この中で自分の特性に関する3項目の結果を表2に示す。

表2 自己評価アンケートの回答比較

	第1回授業 n=138	第9回授業 n=132	有意差
調べたこと学んだことを正確にわかりやすく伝えることができる	3.63 (0.81)	3.81 (0.75)	*
自分の長所・短所を簡潔に説明することができる	3.57 (0.91)	3.75 (0.86)	*
自分の目標をポジティブに伝えることができる	3.06 (0.92)	3.42 (0.92)	**

いずれの項目でも第1回授業よりも平均点が上回っており、有意差が見られた。特に、「自分の目標をポジティブに伝えることができる」では、1%水準で有意であった。このことから、オンデマンド型の授業でも、作成(P, D)→他者評価(C)→修正(A)による実施の可能性と、有効性について示唆された。

5. 今後の課題

今後の課題として、アンケートの比較に利用した回答者数が少ないことから、全履修者を対象とした比較が必要である。また、授業後の自己評価アンケートの利用、対面授業での回答結果との比較も必要である。

参考文献

- (1) 仲林清: “ビデオとオンラインレポートを活用した授業のオンデマンド化の評価”, 教育システム情報学会研究報告, Vol.35, no.3, pp.25-32 (2020)
- (2) 曾我真人, 佐々木直人ら17名: “Zoomのブレイクアウトセッション機能を利用したUnityのプログラミング演習の実践”, 教育システム情報学会研究報告, Vol.35, no.3, pp.53-60 (2020)